



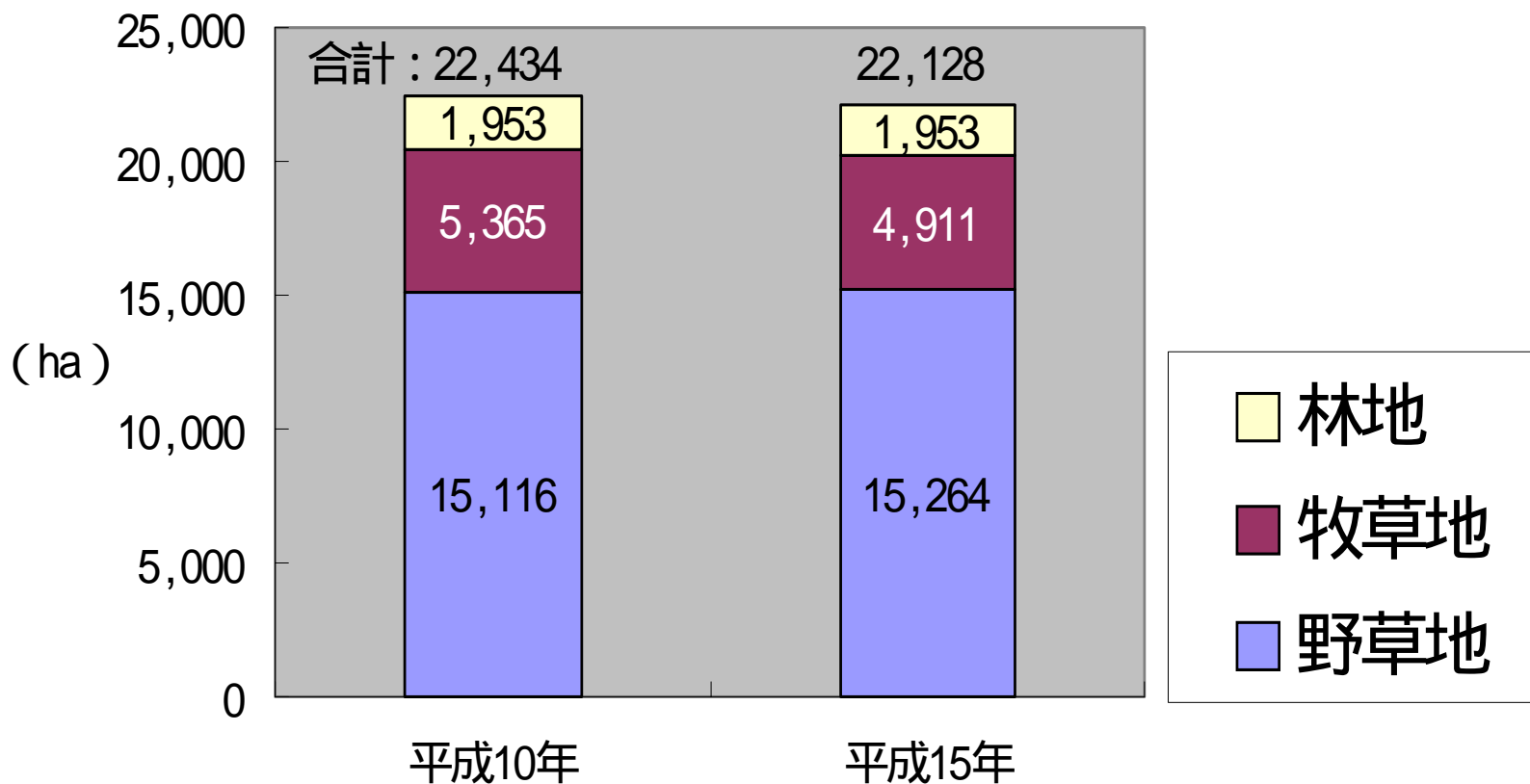
平成15年度 牧野組合調査

調査結果

牧野組合のこの5年間の変化

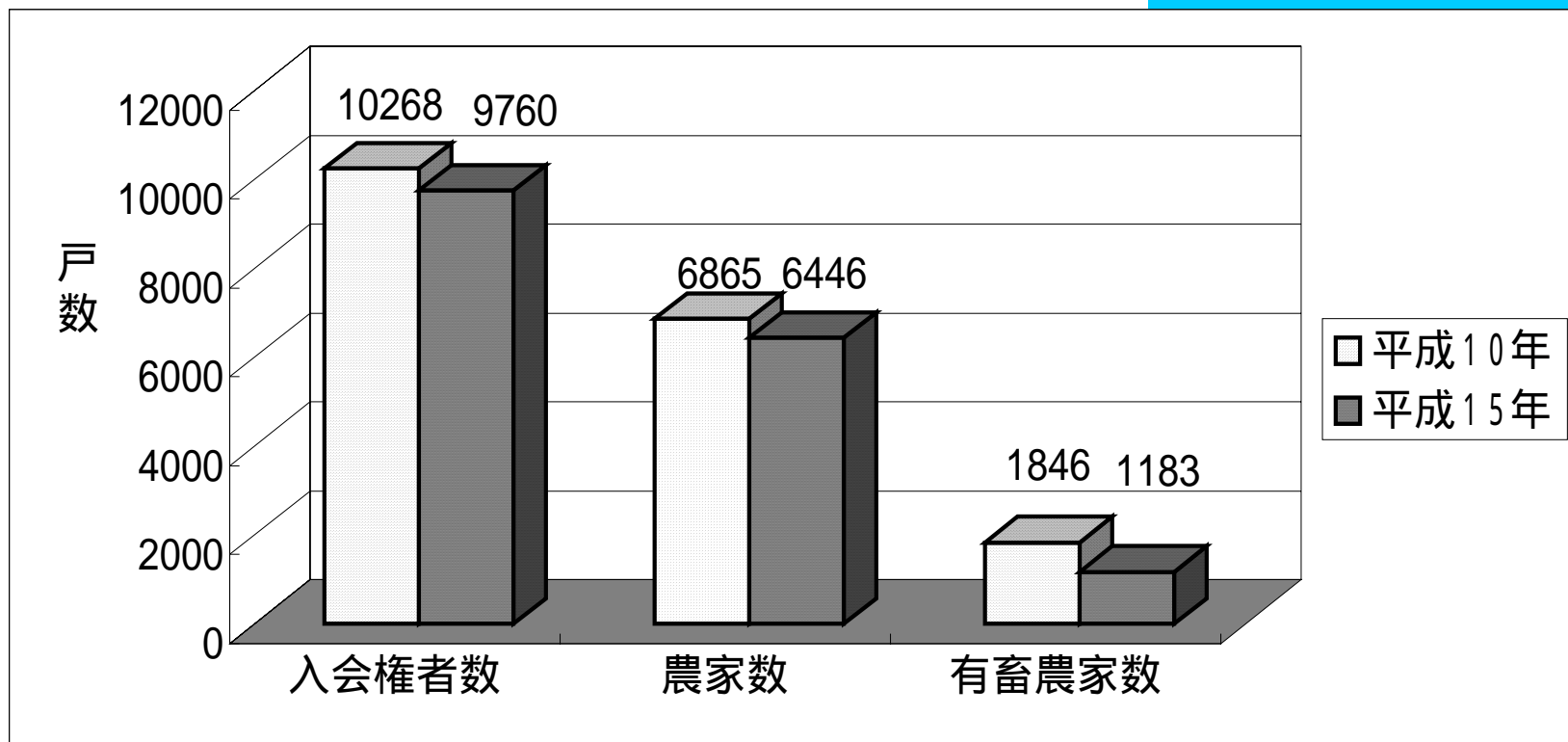
平成10年からの5年間で、牧野総面積は微減。
牧草地は8%減少し、野草地は微増。

牧野面積の増減



牧野組合のこの5年間の変化

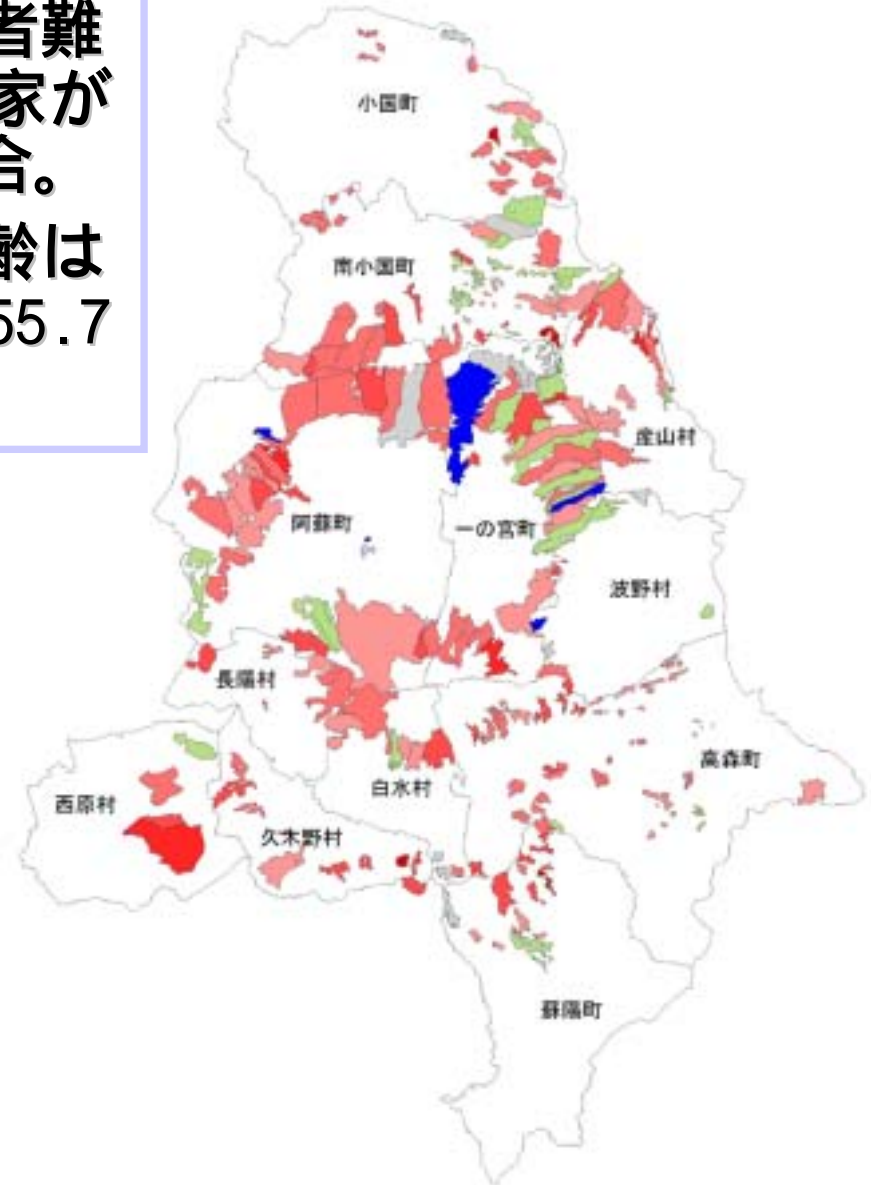
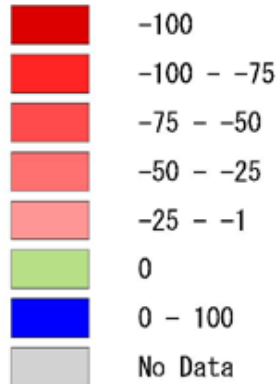
平成10年からの5年間で、入会権者数は5%減少し、有畜農家数は36%減少。



牧野組合のこの5年間の変化

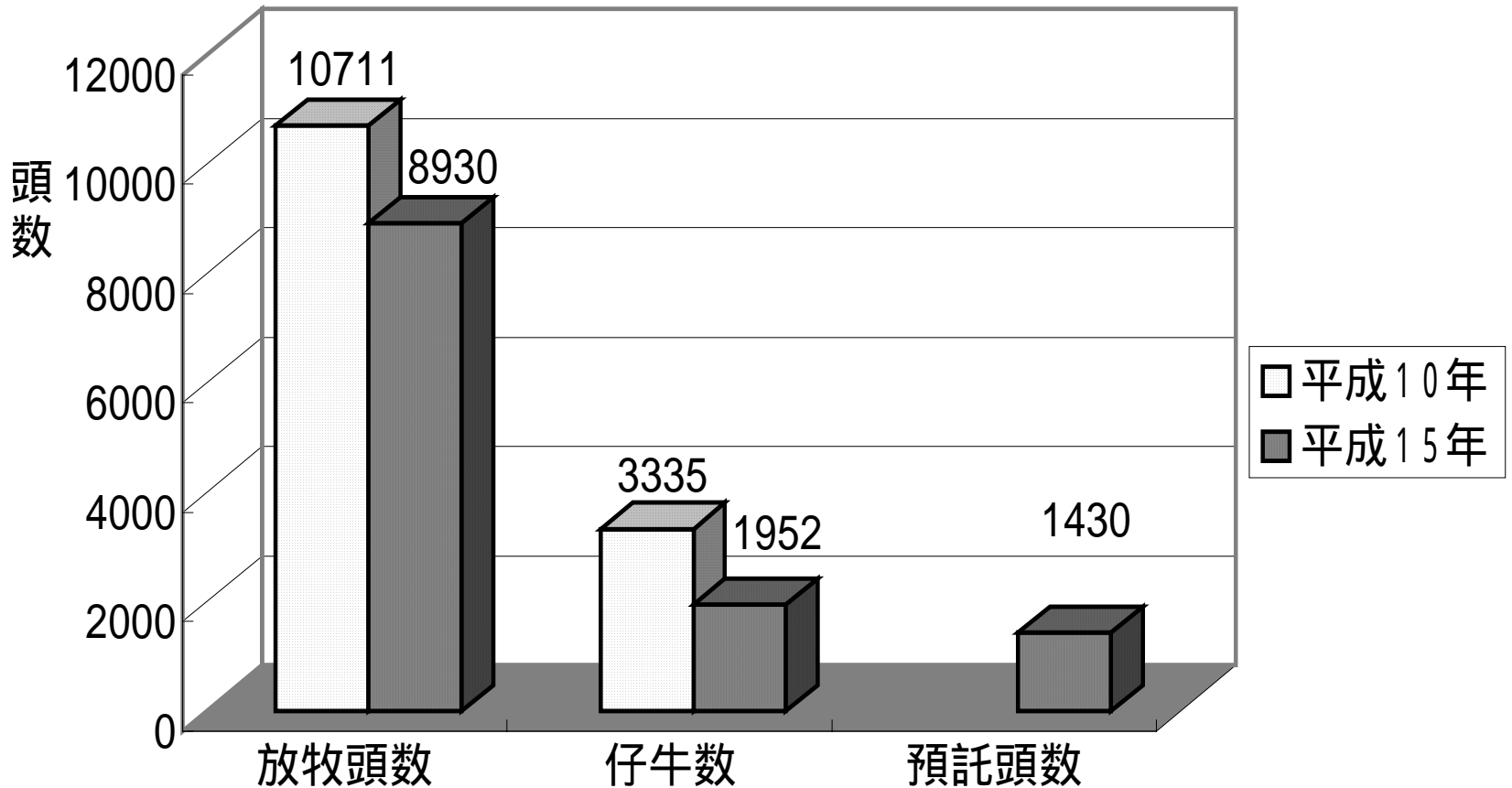
有畜農家の高齢化と後継者難が深刻。5年間で有畜農家が“0”となった牧野も5組合。輪地切り出役者の平均年齢は52.8歳（平成10年）から55.7歳（平成15年）へ。

有畜農家戸数増減率 (H10~H15・%)



牧野組合のこの5年間の変化

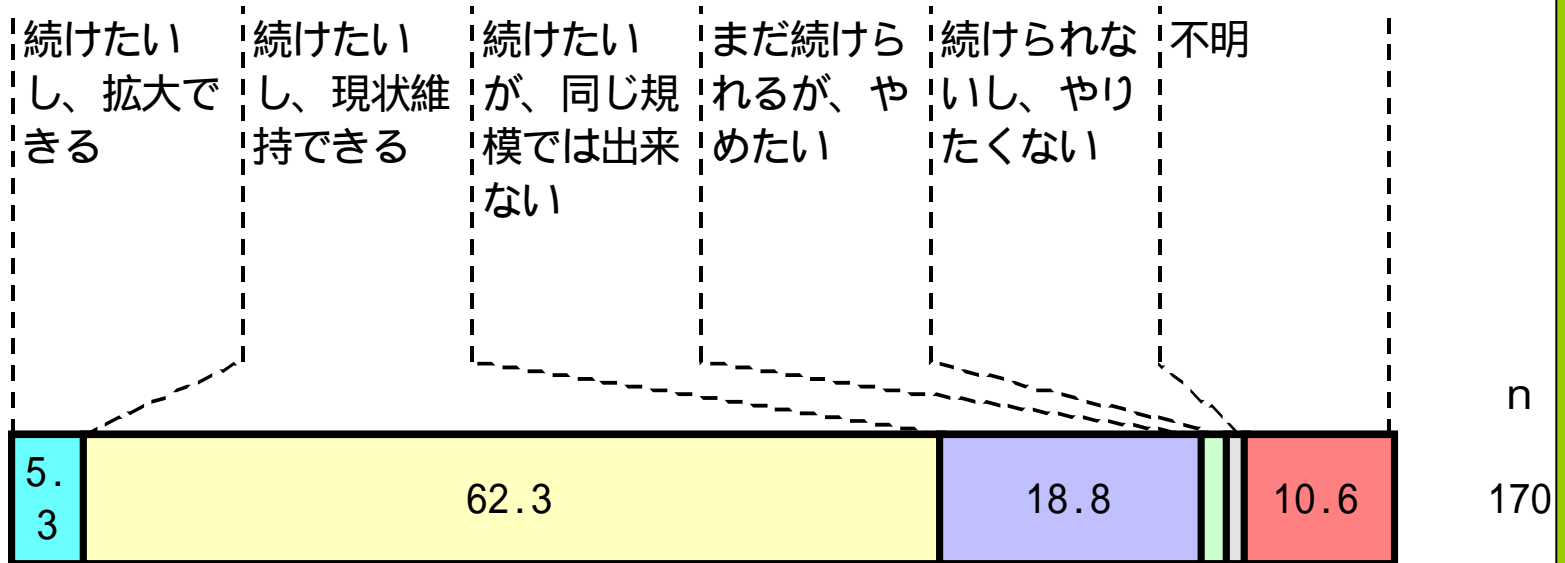
平成10年からの5年間で放牧頭数が約1,800頭（17%）減少。平成15年の預託放牧頭数は全体の16%。



牧野の維持管理継続意向

維持管理継続の意向は高いが、規模を縮小せざるを得ないとする牧野組合も2割弱。

Q4-牧野維持の今後



牧野の維持管理継続意向

「利用していない牧野」がある組合が4割強、
利用していない牧野の面積は全体の1割強。

Q5-利用していない牧野

n=170

0 10 20 30 40 50 (%)

利用していない土地はない 45.9

野焼きだけ行っている土地がある 30.6

野焼きも行っていない土地がある 15.3

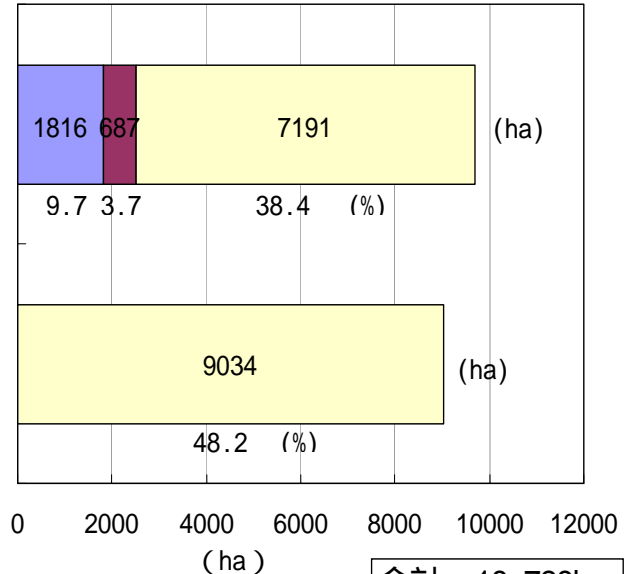
不明 12.4

牧野の利用面積

■野焼きは行っている ■ 放置している □ 利用している

非利用牧野がある
牧野の面積

(N=71)



非利用牧野がない
牧野の面積

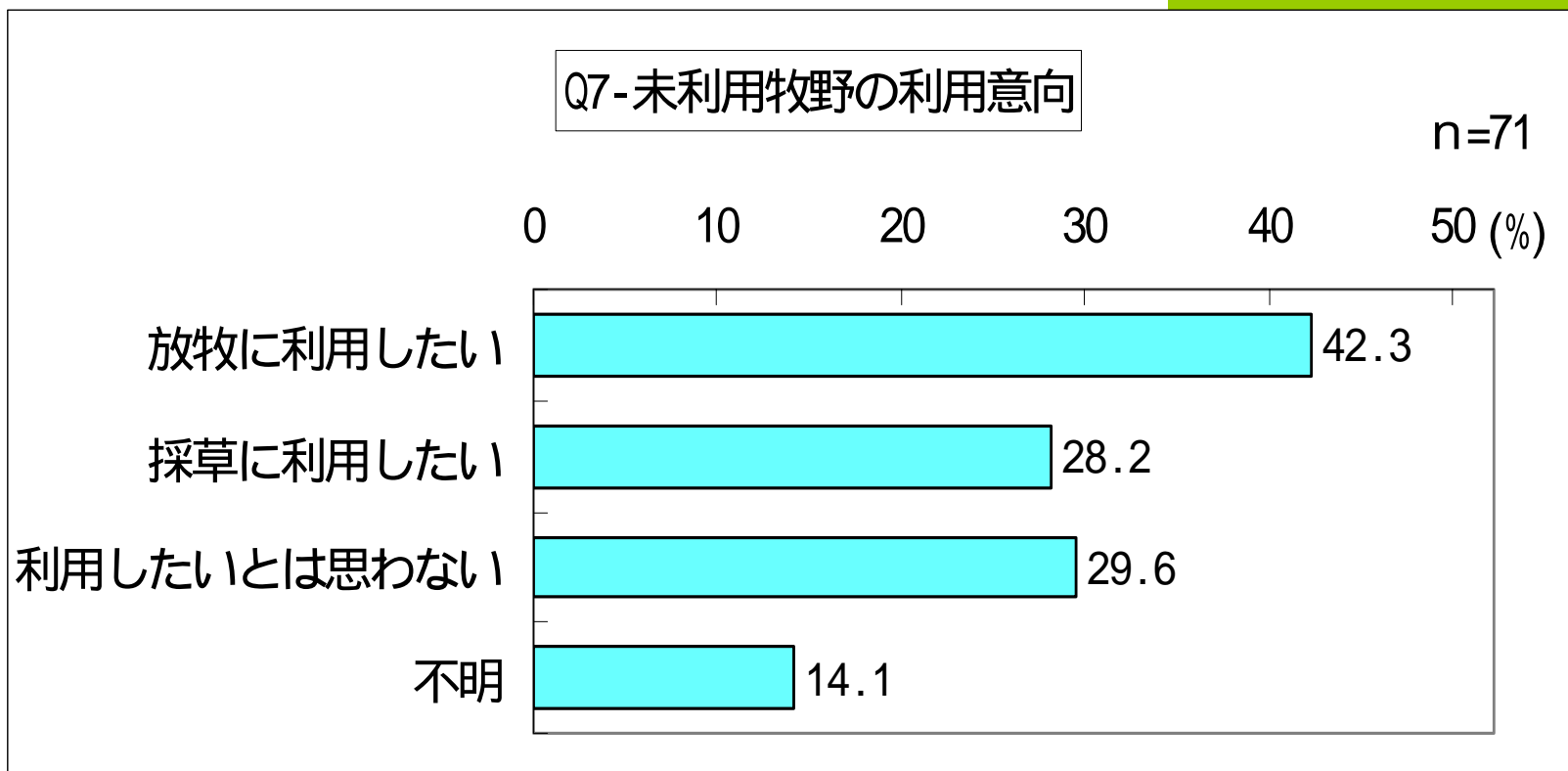
(N=75)

合計：18,728ha

注) 牧野の利用状況に未回答であった20牧野組合、3,459haを除く

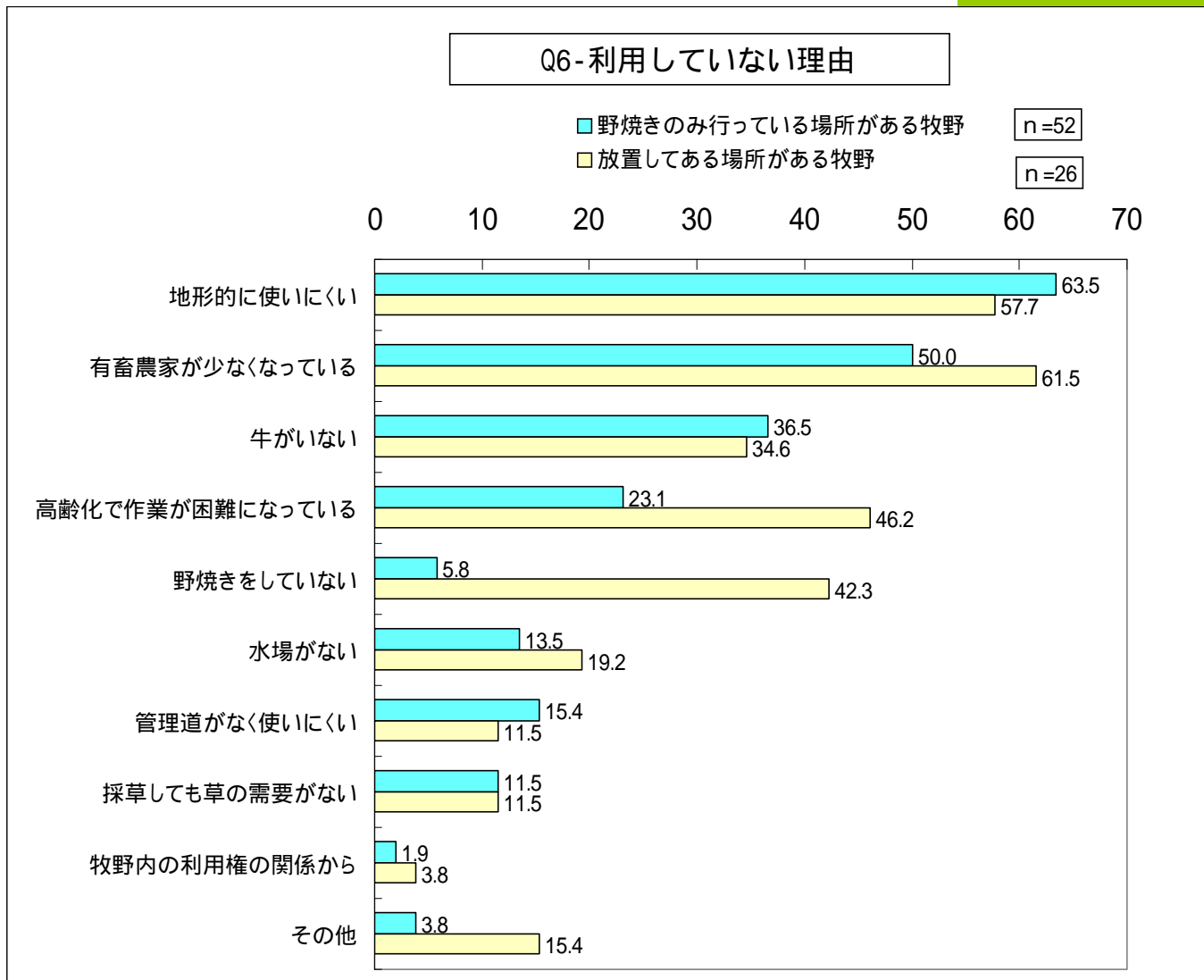
牧野の維持管理継続意向

非利用牧野のある組合の半数以上は、条件が整えば放牧や採草に利用したいとするが、3割は再利用が難しい状況。



牧野の維持管理継続意向

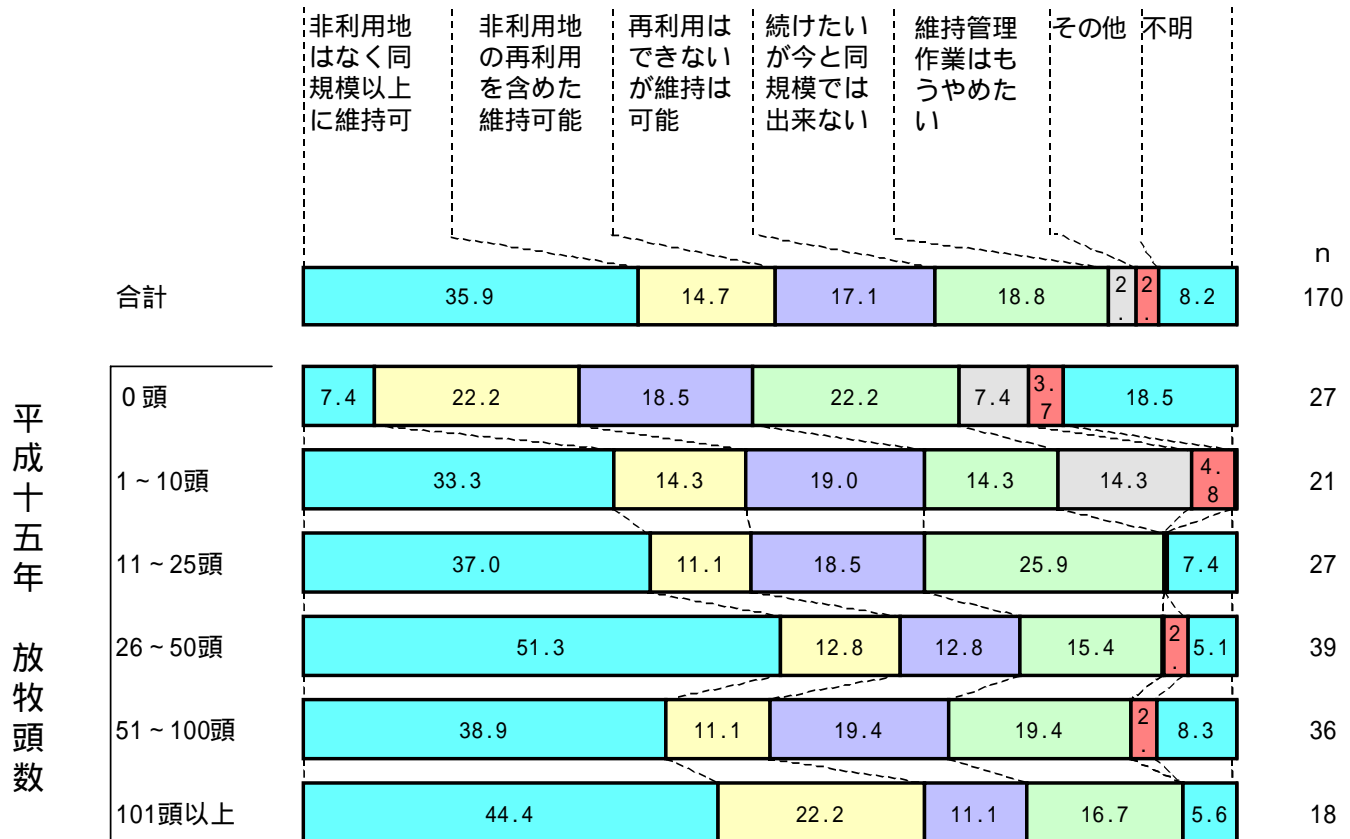
利用放棄の理由は「地形条件」と「有畜農家の減少」。



牧野の維持管理継続意向

有畜農家が少ない組合、放牧頭数の少ない組合では「維持管理の継続が困難」な傾向がある。

非利用地と牧野維持管理についての今後の意向

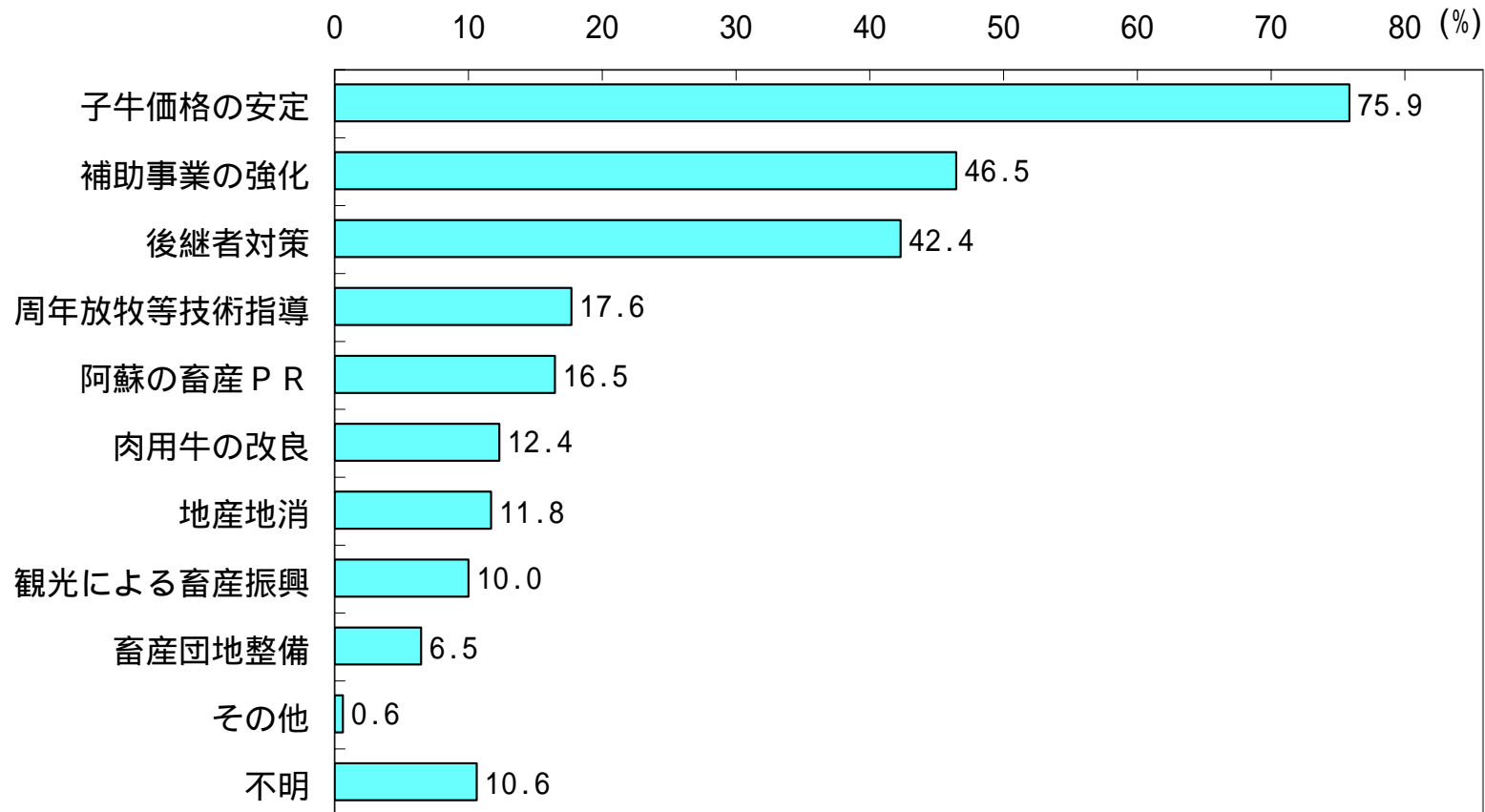


畜産振興策へのニーズ

行政施策として子牛価格の安定が強く望まれている。

Q14-重要と思う畜産振興施策

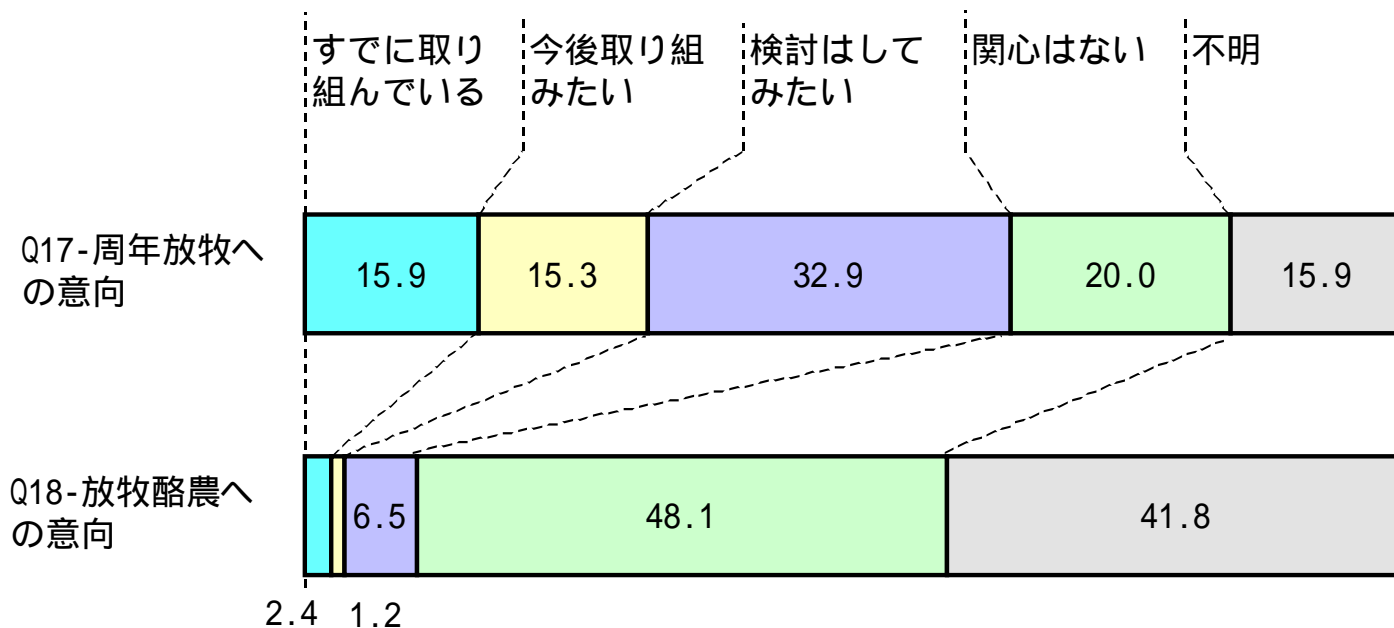
n=170



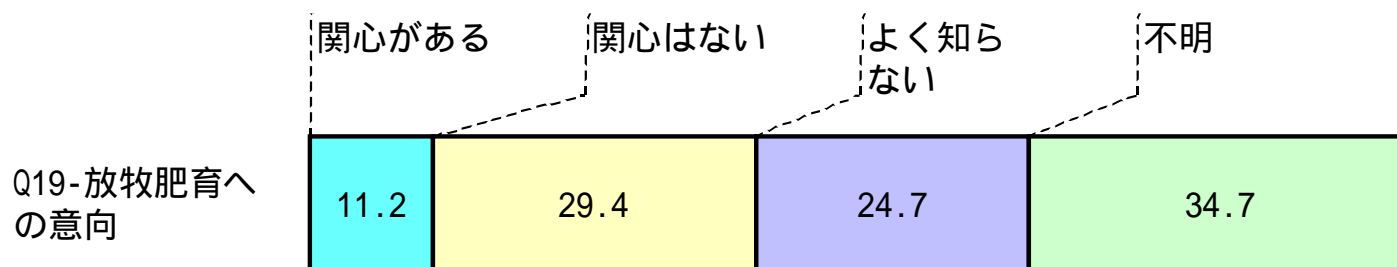
畜産振興策へのニーズ

「周年放牧」は関心が高く定着傾向にあるが、「放牧酪農」や「放牧肥育」への関心は低い。

N = 170



N=170

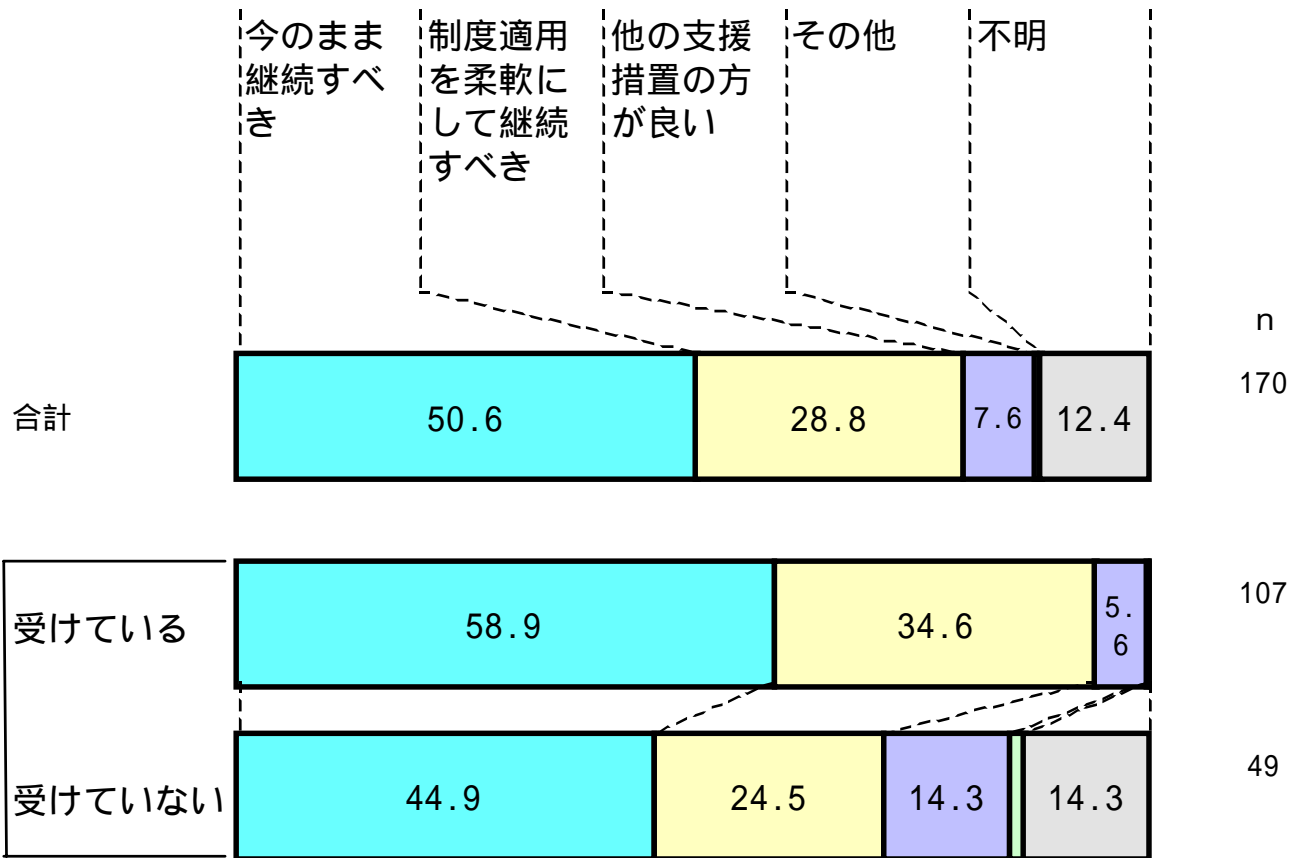


畜産振興策へのニーズ

中山間地域等直接支払い制度は継続を望む声が強い。

Q21- 直接支払い制度継続への意向

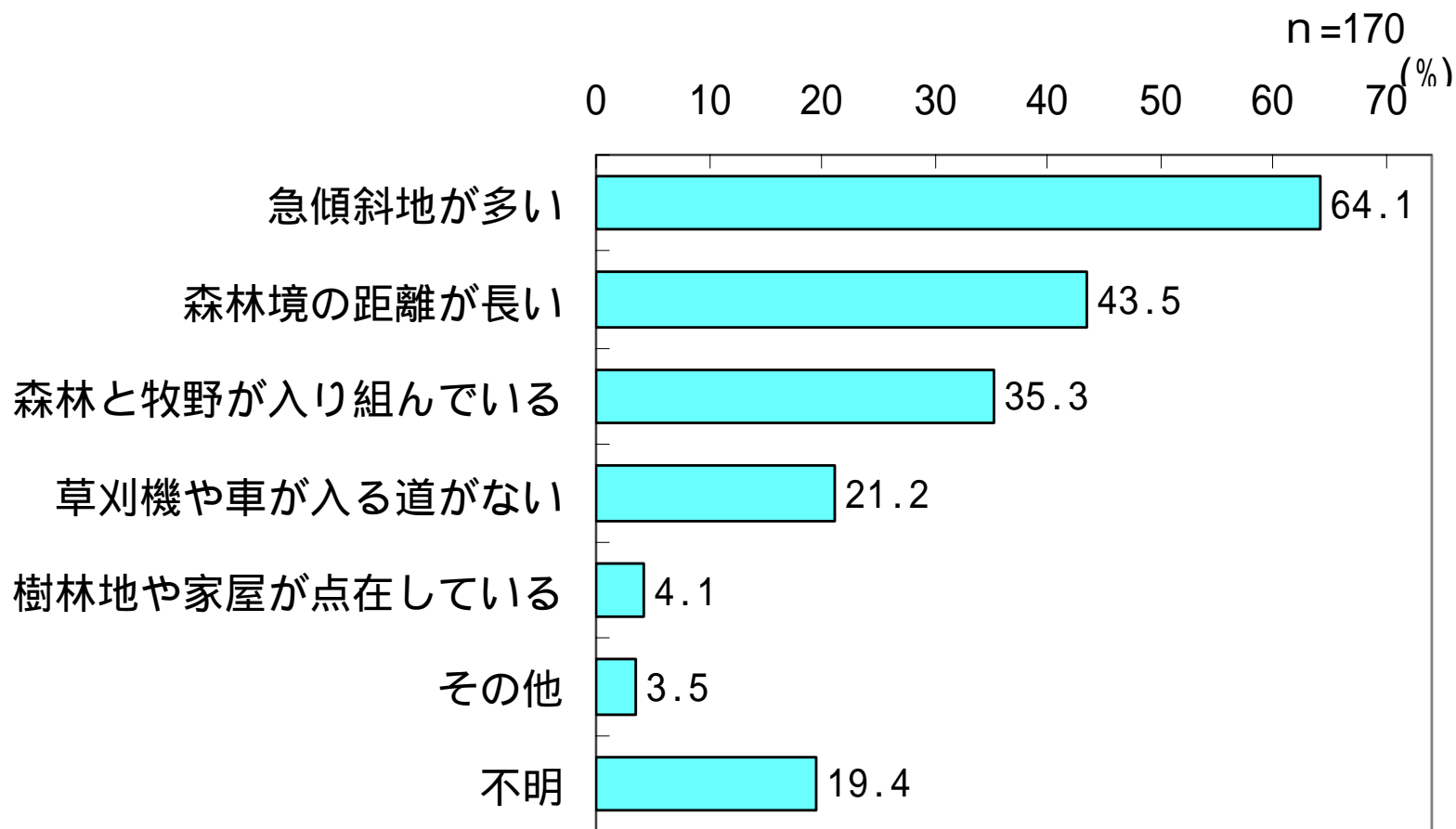
Q20 直接支払い制度助成の有無



輪地切り省力化技術への関心

「急傾斜地が多いこと」が輪地切りの最大の問題。

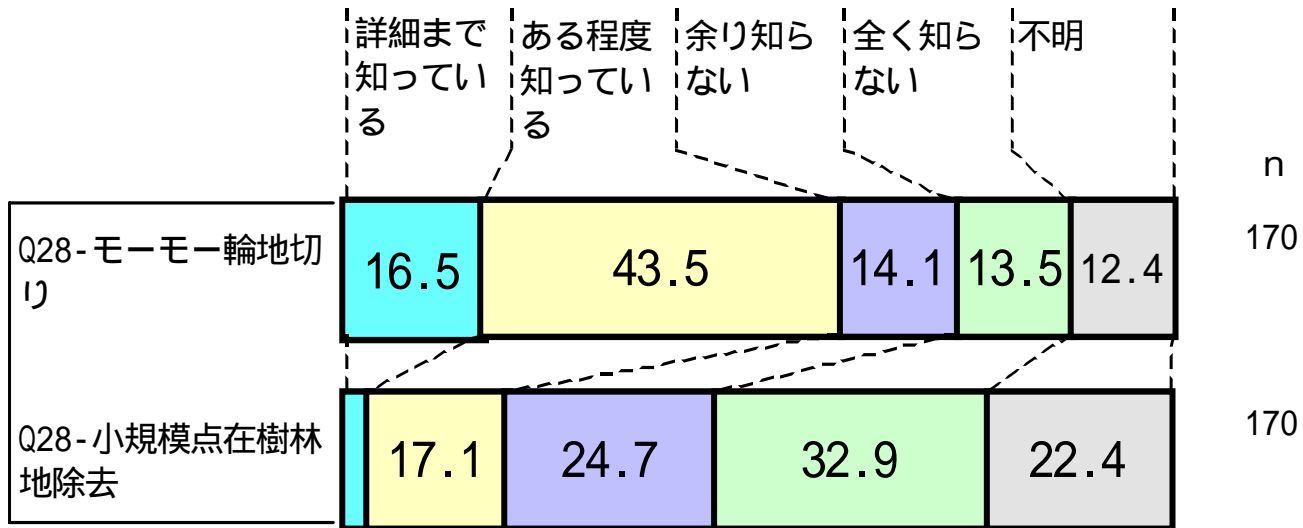
Q27-輪地切りの際の問題点



輪地切り省力化技術への関心

モーター輪地切りを知っているのは、約6割。

省力化技術の認知度

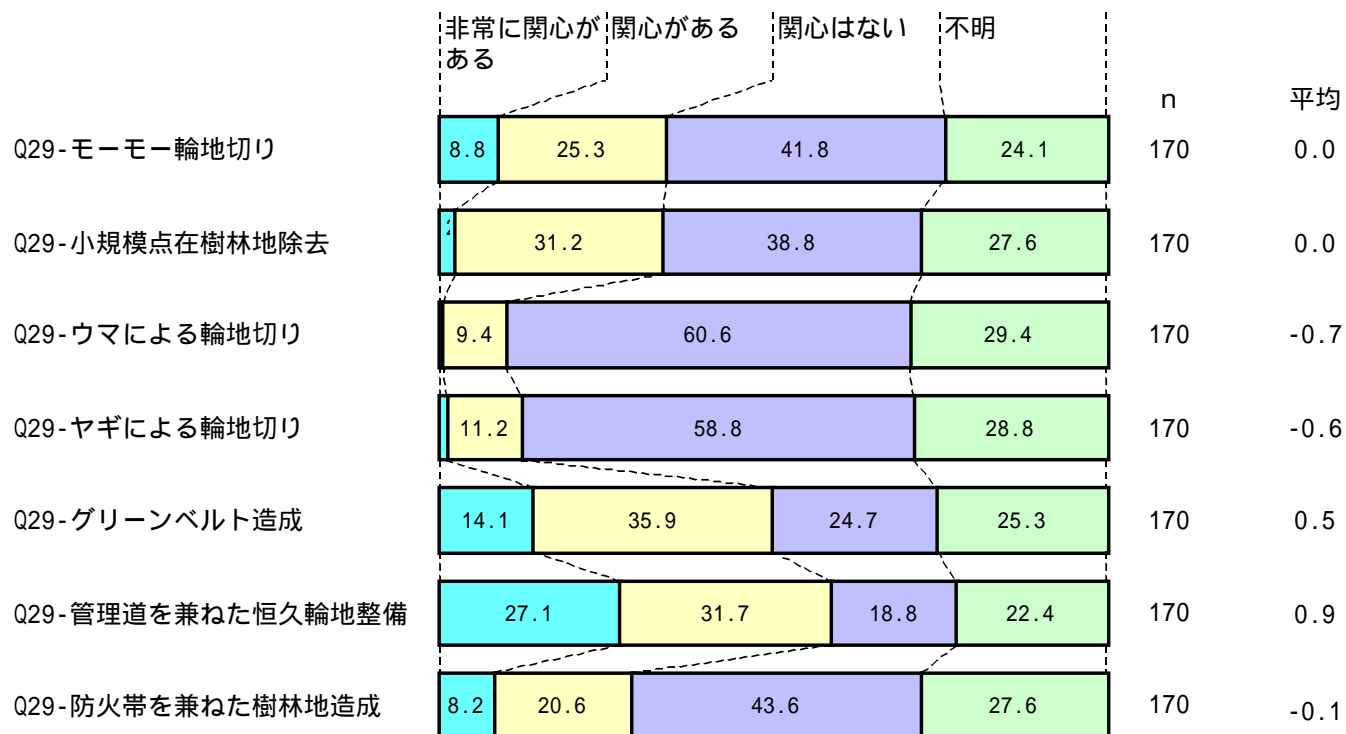


2.

輪地切り省力化技術への関心

省力化技術として関心が高いのは「管理道を兼ねた恒久輪地」(6割)や「グリーンベルト防火帯」(5割)。

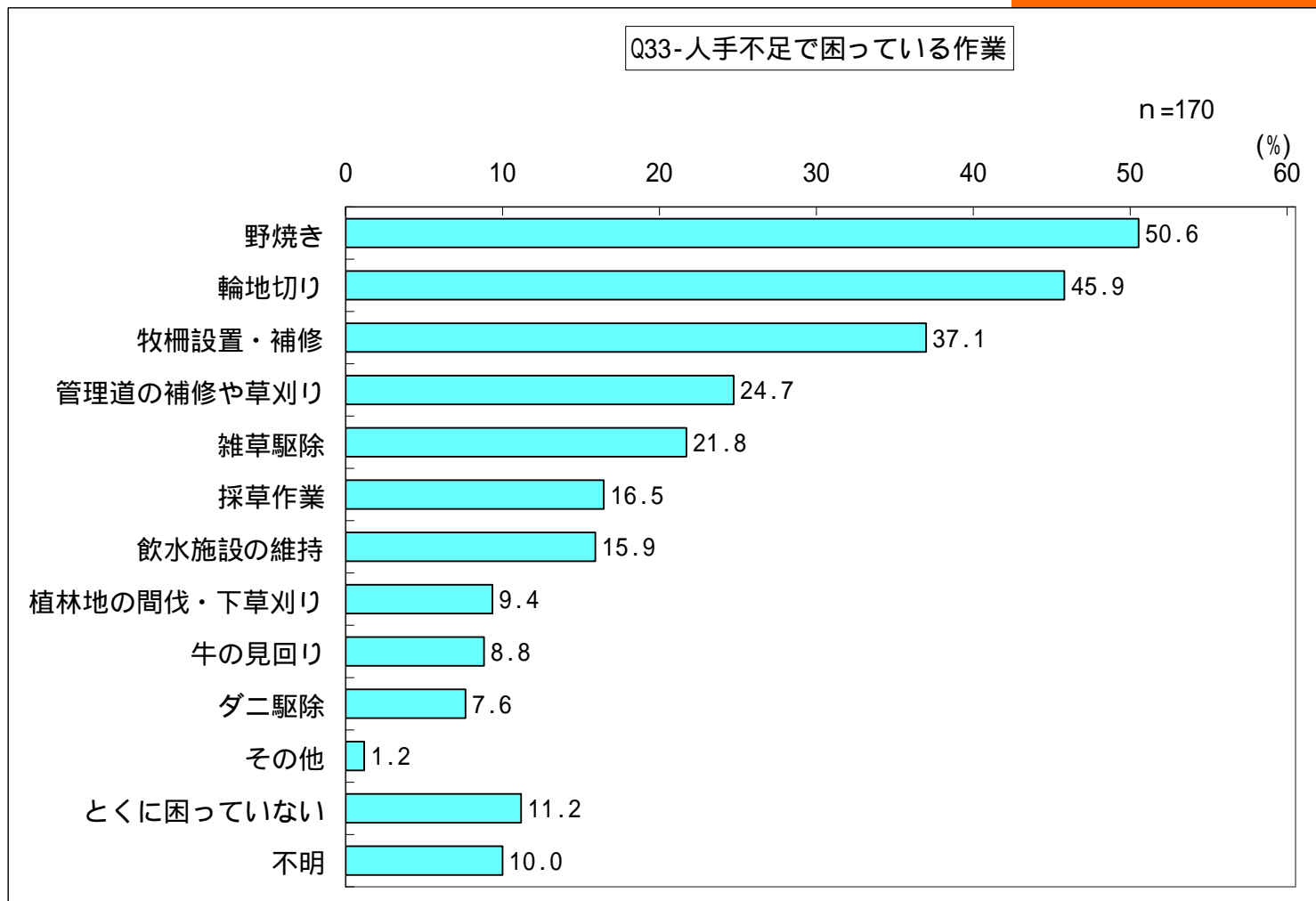
Q29-省力化技術への関心度



注) 平均値: 「非常に関心がある」×2点+「関心がある」×1点+「関心はない」×(-1)点

維持活動支援システム

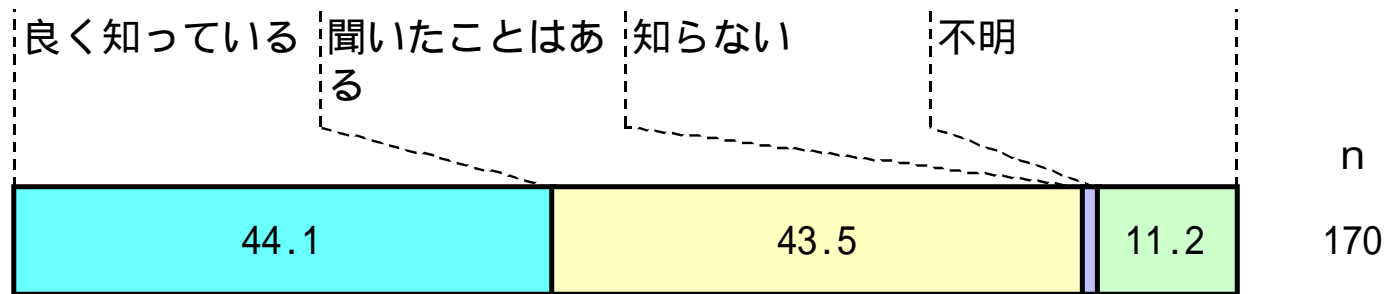
草原維持管理で人手不足を感じるのは、野焼き・輪地切りに次いで「牧柵設置・補修」。



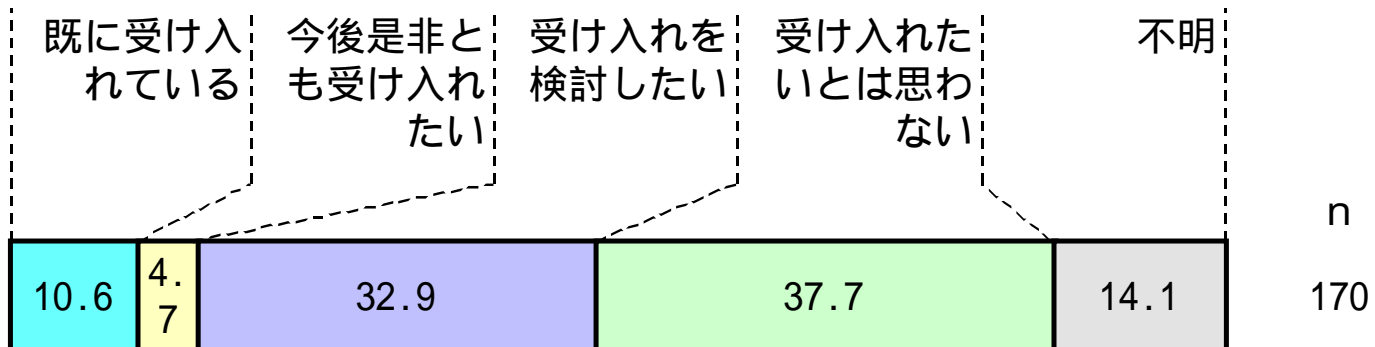
維持活動支援システム

野焼き・輪地切り支援ボランティア活動の認知度は高まっており、受け入れ意向のある組合は半数近い。

Q34-野焼きボランティア活動の認知度



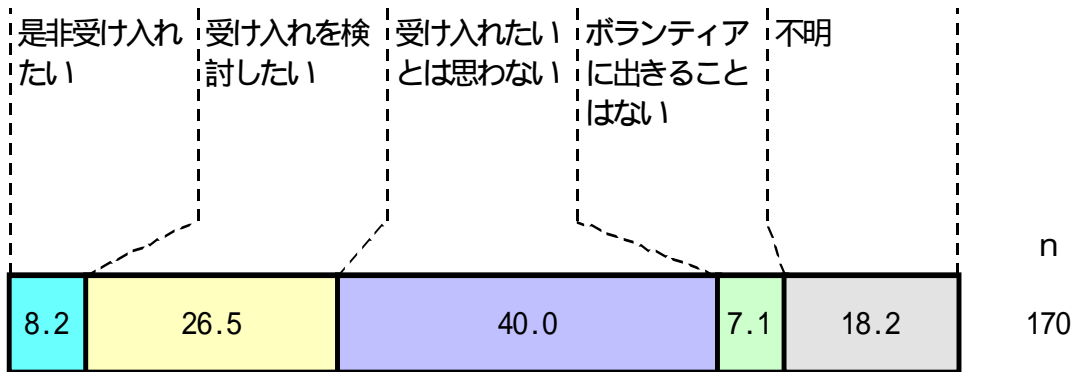
Q35-野焼きボランティア受け入れの意向



維持活動支援システム

野焼き・輪地切り以外の作業での支援ボランティアについては、35%が受け入れを検討。

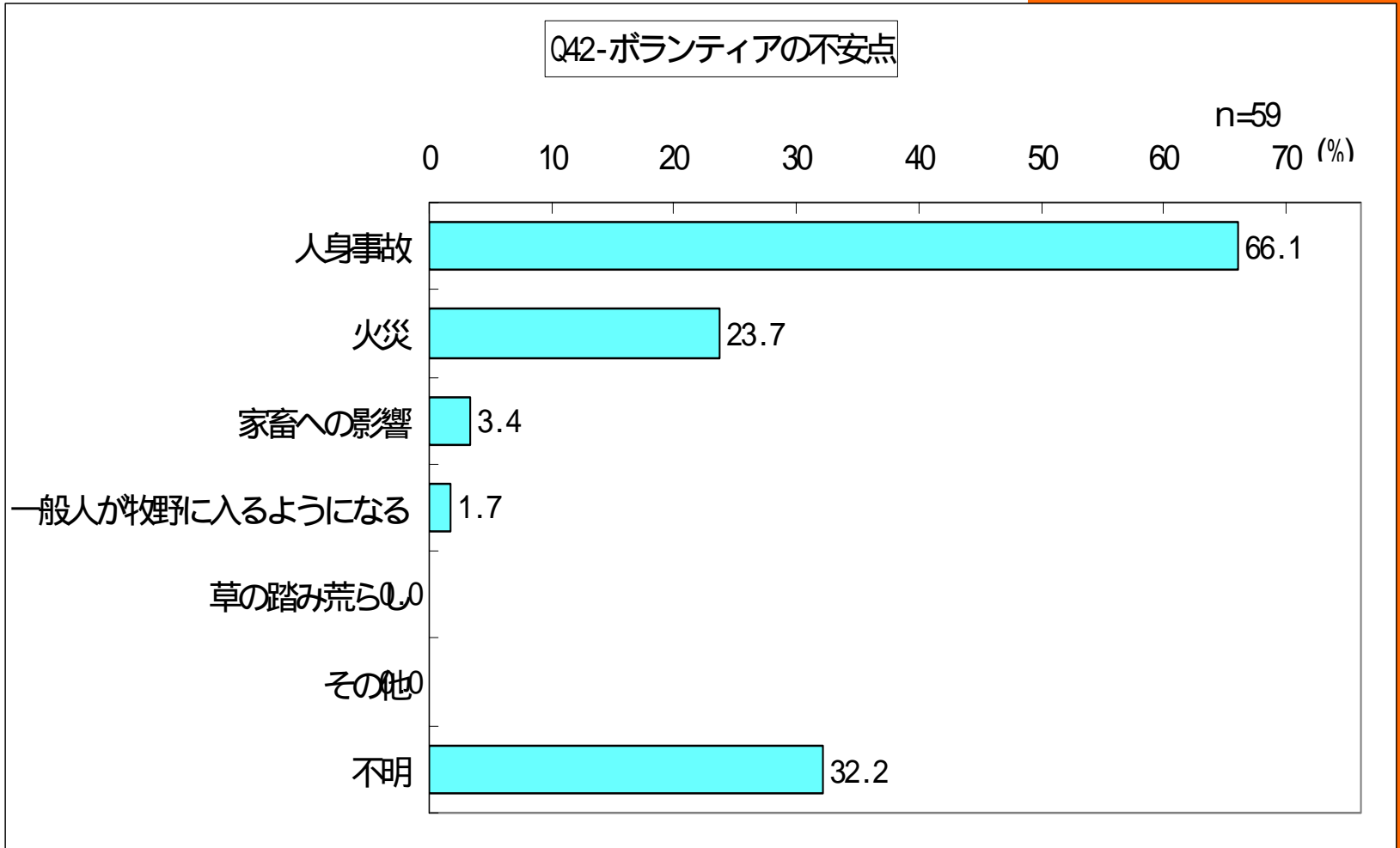
Q37-他作業でのボランティア受け入れ意向



作業内容	受入を希望する牧野数
牧柵補修等	16
雑草駆除	10
採草作業	7
管理道補修	3
草地の管理、牧野更新、肥料散布	3
牛の飼育	1
ダニ駆除	1
森林の手入れ	1
草木、植物等の名前の提示	1
計	43

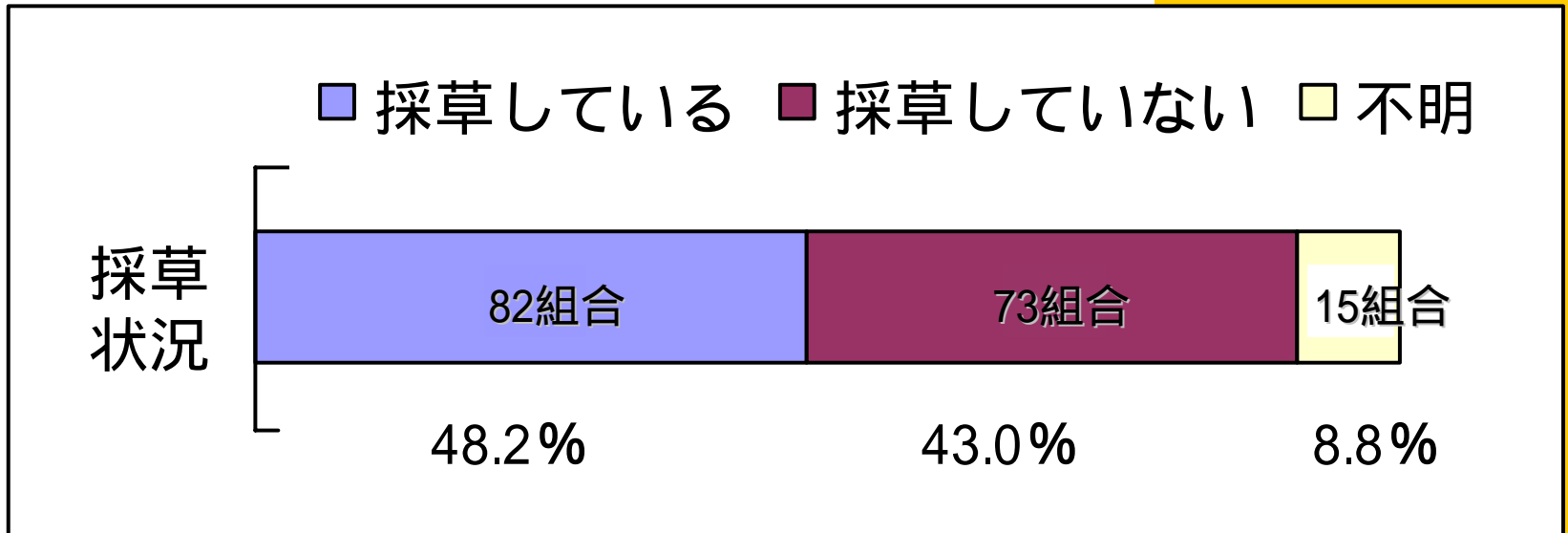
維持活動支援システム

ボランティアを導入する際の不安な点は「人身事故」。



草の活用

採草をしている組合は約半数。



草の活用

採草された野草は、約7割が家畜飼料として自家利用、約1割が販売されている。

野草の利用内訳(t)

